

令和5年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第2回専門部会（テーマ別分科会）議事要旨

日時	令和5年7月4日（火）15:30～17:00
場所	岐阜市役所6階6-1大会議室
出席者	関係団体 1名
	一般・特定・障害児相談支援事業所 21名
	日中活動サービス 9名
	短期入所 4名
	共同生活援助 6名
	障害者支援施設 1名
	（合計 42名）

○検討テーマ…「障がい者虐待防止について」

虐待の防止や早期の対応等を図るためには、市町村や都道府県が中心となって、関係機関との連携協力体制を構築しておくことが重要である。今回、虐待の予防、早期発見、見守りにつながるネットワークの構築のため、虐待防止に関する各関係機関の対応や支援、早期発見等について、主に現場で支援している職員間で協議。

1 はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要説明
- ・岐阜市障害者総合支援協議会第2回専門部会（テーマ別分科会）の趣旨説明や流れについて

2 障がい者虐待の進捗状況

- ・岐阜市での虐待件数の報告等
- ・岐阜市の通報を受けてからの対応を説明（資料1 資料2）

3 各事業所から虐待の相談や通報について思うことを発表

- ・岐阜県障害者権利擁護センター
- ・相談支援事業所
- ・障害福祉サービス事業所

4 グループワーク

グループで話し合われた内容の発表

- ・利用者の呼び方に対する考えをどんどん伝えていくことによって、良い支援に繋がっていくのではないかと。
- ・やはり小さなところから虐待に発展していくので、言葉遣いが大切。また、通報や相談する窓口の敷居が高いので、相談しづらいという話もあった。虐待防止センターなどがもう少し身近な存在にあるとよい。コロナ禍によって、外との繋がりが減って風通しが悪くなったことで、施設内虐待が増えているという話を聞く。これは本人やご家族からの伝言ですが、家族が信用して利用していることが大前提なので、信念や理念を持った支援が必要だとあった。
- ・呼称の問題が最も難しい部分だ。幼少期の頃から関わっていると、呼び方を改めていくタイミング

グが難しい。また、まずは利用者さんとの信頼関係作りを進めていくことが必要だ。

- ・呼称の問題が多く出た。グループホームでは、ずっと下の名前で親しまれてきたので、できればそのまま呼んでほしいという話を聞いた。事業所によっては、それでも「さん」付けに統一しているところがあるが、呼び方一つで親密性や支援の内容が変わってくるのであれば、支援自体が足りないのではないか。また、職員側に余裕がないと、舌打ちをしてしまうなど、ちょっとした大変さがそういった態度に出てしまうので、他の人の目があるという意識を持つことも虐待防止に繋がっていくのではないか。
- ・通報や相談の窓口は障がい福祉課にあるが、上司などを介さずに、気づいたスタッフが直接するということを知らなかった人と、そのことをすでに教わっている方がいたので、所属しているところによって違いがあることがわかった。
- ・どこから虐待に入るかというところや、職員間同士の私語などのラインをどこに引くべきかという話をした。虐待かどうか分かりづらいグレーな支援について、遠慮なく話せる場を定期的で作ってほしいという話があった。虐待かどうかを職場内で判断するのではなく、見た人が通報や相談をし、市町村がそれを判断していくことになるので、見た人が行政に伝える仕組みを取ってほしい。

5 まとめ

- ・呼称など小さなことから発展していくこともある。支援に対する正しい答えは一つではないと思うため、何か引っかかる場所があれば、みんなで話し合っていくことが大切である。
- ・通報や相談をするかどうかで迷ったら、まずは障がい福祉課（虐待防止センター）へ連絡する。

6 当日の様子



7 当日アンケートの結果

①本日の岐阜市総合支援協議会 第2回テーマ別分科会について

とても良かった	… 34.5%
良かった	… 62.1%
普通	… 3.4%
やや不満	… 0.0%
不満	… 0.0%

②障がい者虐待の進捗状況について

とても良かった	… 10.4%
良かった	… 65.5%
普通	… 24.1%
やや不満	… 0.0%
不満	… 0.0%

③各事業所から虐待の相談や通報について思うことを発表について

とても良かった	… 44.8%
良かった	… 41.4%
普通	… 13.8%
やや不満	… 0.0%
不満	… 0.0%

④グループワークについて

とても良かった	… 27.6%
良かった	… 44.9%
普通	… 20.7%
やや不満	… 3.4%
良くなかった	… 3.4%

⑤本日の感想など

- ・いろいろな方からあらゆる角度からの意見を伺うことができ、とてもよかった。これから相談支援専門員の資格を取る予定だが、良い刺激となり、とても勉強になった。
- ・他事業所の取り組みについて知ることができてよかった。
- ・虐待対応に対する市役所の見解なども聞けるとよかった。
- ・いろいろな事業所の方からの話が聞けるので、グループワークの時間を多く設けてほしい。
- ・グループワークを行うには少し時間が短かったように感じたが、短かった分、関係者一人ひとりが意識して取り組むべき課題であると感じることもできた。
- ・虐待の未然防止に向けたご努力や、多面的な考え方が分かり、大変勉強になった。テーマを絞った話し合いをグループで行ったことにより、悩みは同じで、向かうべきところは同じだということが分かりよかった。
- ・このような場面に、現場スタッフも参加できるとよいと思った。普段とは違う場で、このような話を聞くと、とても気が引き締まってよいと思った。
- ・いろいろな事業所の取り組み内容を知れて良かった。グループワークの話題にあがっていた呼称や「ちょっと待って」についての行政としての意見やアドバイスを聞きたいと思った。
- ・普段は他の事業所の話を聞く機会があまりないので興味深く感じた。
- ・「虐待はある」という視点を持つことが大切と分かった。職場では日常的に療育について振り返り、話し合っているが、改めてグレーな支援を洗い出し、改善するにはどうしたらよいか徹底的に話し合いたいと思った。
- ・虐待防止について改めて考える良いきっかけになった。「わかっているつもり」「できているつも

り」が結果的に気の緩みになると感じた。グループワークは大変参考になった。1 人事業所以外はどこも虐待防止委員会を設置してその事業所に沿った取り組みをしていた。1 人事業所では市町村に相談していた。障がい特性やサービス内容によって悩みなどが違っており、虐待についての考えや防止のための工夫を共有するための時間がもう少し欲しかった。

- ・ 自社の虐待防止委員会をもっと充実したものにしたいと思った。
- ・ 虐待については永遠に変わらないものだと思う。今回も上がったが〇〇さんと呼ぶべきだと言うことを多々言われるが、〇〇さんと呼ばないと本当に虐待に当たるのだろうか？本人が望むのであればちゃんや君呼びでもいいのではないか？虐待と呼ばれるものの真意はそこではない気がしてならない。相手に不快な思いや傷つけることを言うのは心理的虐待に当たると思うが、必ずしも〇〇さんと呼ばないことが虐待とはどうしても思えない。利用者との人間関係を築いていく上で、ちゃんや君呼びが必要な時もある気がする。それよりも利用者に対して平気で見下したものの言い方をする人がいるが、いくらさん呼びをしても何にもならないと思う。車椅子に乗車している利用者に対して立ったまま話をするのもおかしいと思う。視線を同じ位置にするなり、視線が私の方が下から利用者を見上げるようにして話をする。ある利用者に言われたことがある。立ったまま話されると見下されてる気がするし、真実を話しにくいと言われた。
- ・ 初めて参加した。現場の具体事例を提示しての研修会はわかりやすかった。熱い語りには必死さも伝わってきた。加えて司会者までが必死に語っていた。一方で、福祉現場の倫理観が低いのではないかという不安感を突きつけられた感覚にもなった。児童虐待は現在も増加しているが「189」という標語が随分定着し通報のハードルは下がったと感じる。特に学校等の現場では通告をためらうことはほとんどない。障がい者福祉の現場では通報をためらうという人が多いという傾向が強いようだが、福祉現場での人権感覚や倫理観をいかに醸成していくのかを県や市はもっと考えていってほしいという感想も抱いた。グループワークについては司会者も話していたがもう少し時間があると深まったと感じた。現場の声こそ大切にすることを経験会の中でも強く意識してもらえるとよかった。
- ・ 虐待防止のために監視カメラを設置する事業所がある。もちろん事業所として虐待予防する上で方法の一つだとは思いますが、大切なのはやはり支援者一人ひとりの気持ちや意識だと思う。
- ・ 呼称の問題や曖昧な言葉の表現がやがて虐待に発展するかもしれないとはあまり気にしていなかったが、今回をきっかけに考え方を改めないといけないと思った。基準というのは曖昧だからこそ、事業所内でも共通認識として徹底しないといけないと思った。